

21 世紀の森と広場 おうちパーク

21 世紀の森でみられる ^{もうきんるい} 猛禽類

21 世紀の森には、林や広場、田んぼ、畑があります。みなさんはいつも「21 世紀の森と広場」を散歩したり走ったりしていることと思います。

皆さんと同様にこの「21 世紀の森と広場」を大好きで利用している生き物はいっぱいいます。

今日はその中の『猛禽類』についてご紹介いたします。猛禽類というのは鳥類の中で、ワシタカ類やフクロウ類のことを言います。

彼らは、^{せいたいけい}生態系ピラミッド（もしくは ^{せいたいもう}生態網）の中で一番高いところに位置し（偉いわけではありません！）、彼らが暮らすためにはたくさんの他の生き物がエサとして必要です。

逆に言うと、彼らが暮しているということは、豊かな自然があるということにもなります。



では、21 世紀の森と広場にはどんな猛禽類がいるのでしょうか。今回はよく見ることが出来る 3 種類の猛禽類についてご紹介いたします。みなさんも探してみてください。

オオタカ ^{りゅうちょう} タカ目タカ科 留鳥



^{せいちょう}成鳥は、^{はいめん}背面は青みを帯びた黒色、^{はくめん}腹面は白色に細い波状の暗灰色の横帯があります。^{ようちょう}幼鳥では、^{かつしよく}頭や背は褐色で、胸や腹はクリーム色。胸には、褐色

の ^{じゅうはん}縦斑 があります。カラスと同程度の大きさです。メスがオスよりも大きいです。

(日本国内の生息場所)

北海道から本州の広い範囲で ^{はんしょく}繁殖。四国、九州の一部でも繁殖が確認されています。山地の森林から都市の緑地まで広く生息し、平地から ^{きゅうりょうち}丘陵地 の、森林と開放地がモザイク状に存在する場所に生息しています。

(^{えさ}餌)

主に鳥類。なかでも一番良く食べるのは中型のハト類。近年ではカラス類を食べることも多いそうです。

(21 世紀の森と広場とオオタカ)

21 世紀の森と広場では ^{みすと}水鳥 なかでもオオバンを食べている姿がよく確認されています。^{せんだぼりいけ}千駄堀池 の ^{なかのしま}中之島 や ^{しゃめんりん}東側の斜面林 の木によく止まっています。

ノスリ タカ目タカ科 留鳥 (四国、九州中部以南では冬鳥)



成鳥の上面は ^{たんかつしょく}淡褐色 から ^{あつかつしょく}黒褐色。喉から胸は白っぽいものから淡褐色。腹に ^{ちやかつしょく}茶褐色 の帯 (ノスリバンド) が入ります。虹彩は ^{こうさい}暗褐色。幼鳥は背面が淡褐色、または ^{はいいろみ}灰色味 で、胸から腹に縦斑があります。虹彩は ^{たんこうしょく}淡黄色。飛翔中 ^{ひしょうちゅう}羽 が少し上の方に上がっています。尾は広がっています。

(日本国内の生息場所)

日本では北海道から本州で繁殖するが、九州の熊本や大分でも繁殖が確認されています。

(餌)

ネズミが多いが、^{はちゅうるい}爬虫類 や ^{りょうせいるい}両生類、小型の鳥類も捕まえます。

(21 世紀の森と広場とノスリ)

自然生態園の周りの木に止まっていることが多いです。オオタカが白く見えるのに対し、少し茶色っぽく見えます。

サシバ タカ目タカ科 夏鳥



成鳥の上面は褐色で喉は白く中央に黒い縦線があります。胸から腹は白く横斑^{おうはん}があります。顔には白い眉斑^{びはん}があり頬^{ほお}は灰褐色^{はいかっしょく}でくちばしは黄色いです。体色は個体差があり暗色型と言われる全体が茶褐色の個体もいます。幼鳥は頸部^{けいぶ}や胸から腹に縦斑があります。雨覆い^{あまおおい}の先端が白く斑点^{はんてん}のように見えることもあります。飛翔中ピクイーと鳴いています。飛ぶ姿はノスリやオオタカに比べ羽が細く見えます。

(日本国内の生息場所)

夏鳥として本州から九州の低山や丘陵^{きゅうりょう}に飛来^{ひらい}しますが、沖縄では越冬^{えっとう}する個体もいます。秋の渡りの時に大群が群れとなり通過して行くことがよく知られています。

(餌)

田んぼでカエルやヘビなどの両生類や爬虫類、夏～秋には林で昆虫などを捕食します。

(21 世紀の森と広場とサシバ)

上空を通過していくことがあります。千葉県では、秋の渡りは9月から10月初旬くらいです。そのころに、高く青い空を探してみてください。もしかしたら何十羽もが群れとなり南西方向に飛んで行く姿が見られるかもしれません。

サシバからのメッセージ

今年も林で子育てをしました。田んぼでカエルやヘビをたくさんありがとうございました！！林では昆虫を！

私たちは、今、晴れた気流がいい日に集団で南に帰ります。空を見上げてね。壮大な光景がみられます！！ハチクマさんも一緒です。

また来年も来ます。私たちの子育ての場に。そこがある限り。



発行：2020年10月 21世紀の森と広場パークセンター